



コレクション展

特集展示：藤田喬平

2017年1月20日（金） — 2017年6月4日（日）

- 展覧会名 コレクション展/特集展示：藤田喬平
- 会 期 2017年1月20日（金） — 6月4日（日）
- 会 場 富山市ガラス美術館 展示室4、透ける収蔵庫（4階）
- 出品作家 ハワード・ベン・トレ/エルヴィン・アイシュ/ヤン・フィシャル/藤田喬平/
スタニスラフ・リベンスキー&ヤロスラヴァ・プリフトヴァ/ハーヴェイ・K・リトルトン/
レネー・ロウピチェク
- 出品点数 29点（会期中、一部作品の展示替えを行ないます）
- 開場時間 午前9時30分から午後6時（金・土曜日は午後8時まで。入場は閉場の30分前まで）
- 閉 場 日 第1、第3水曜日（ただし5月3日（水）は開場、5月10日（水）は閉場）
- 観 覧 料 一般、大学生200円（160円）、高校生以下は無料
※（ ）内は20名以上の団体
※本展観覧券でグラス・アート・ガーデン（6F）もご覧いただけます
※企画展の鑑賞券をお持ちの方は、本展およびグラス・アート・ガーデンも観覧できます。
- 主 催 富山市ガラス美術館

展覧会概要

富山市ガラス美術館では、主に 1950 年代以降に制作された国内外の現代ガラス作品を所蔵しています。ガラスを用いた造形表現を行う作家達は、1960 年代より国境を越えて交流を広げていきました。特に、1962 年より始まったアメリカのハーヴェイ・K・リトルトンとドイツのエルヴィン・アイシュの交流や、1967 年に開催されたカナダのモントリオール万博に、チェコのスタニスラフ・リベンスキー&ヤロスラヴァ・ブリフトヴァとレネー・ロウビチェクが作品を出品したことは、ヨーロッパとアメリカの作家達が互いの思想や制作活動に触れながら、よりいっそう自らの表現を追求していく契機となりました。今回のコレクション展では、作家それぞれが多様な文化や思想に目を向けながら、自らを取り巻く社会や価値観に向き合う中で生み出した豊かな表現を紹介します。また特集展示では、1975 年にデンマークでの展覧会に参加した後、海外での展覧会や作品制作にも積極的に取り組んだ日本の作家、藤田喬平を取り上げます。

展覧会の特徴

1. 国際的に高い評価を得てきた 7 名の作家による多様な表現を紹介

今回のコレクション展では、ガラスを用いて作品を制作する現代作家の中でも、独自の表現や作品世界を切り開き、国際的に高い評価を得てきた 7 名を紹介します。今回展示されるのは、所蔵作品の中でも彼らの代表作とすべき作品群です。作家達が生み出す多様な表現は、力強い存在感を放ち、展示空間の中で互いに呼応し合います。

2. 2部構成による展示

今回のコレクション展は、2つのパートで構成されます。前半は所蔵作品の中から、ハワード・ベン・トレ、エルヴィン・アイシュ、ヤン・フィシャル、スタニスラフ・リベンスキー&ヤロスラヴァ・ブリフトヴァ、ハーヴェイ・K・リトルトン、レネー・ロウビチェクによる作品を展示します。

後半は、日本の現代ガラス美術の代表的な作家である、藤田喬平を特集展示として取り上げます。この特集展示は、当館が所蔵する藤田喬平作品の中から、寄贈作品をまとめた形で紹介する初の機会となります。

「特集展示：藤田喬平」について

藤田喬平（1921-2004）は日本の現代ガラス美術における先駆者と言うべき作家の一人です。1964年の《虹彩》の発表以降、藤田は試行錯誤を繰り返しながら独自の造形表現を模索しました。

琳派の芸術に影響を受けて制作された「^{かさりぼこ}飾 筥」のシリーズは、日本美術や古典文学、あるいは日本の四季の風景から得たモチーフを金箔、銀箔、そしてプラチナ箔と色ガラスの色彩によって表現しています。日本的と言えるモチーフや情景を、ガラスを用いた制作プロセスにおいて、素材、そして作家の感性と融合させながら「はこ」のかたちに再構築していく「飾 筥」シリーズは、繊細で柔らかな美しさを^{たた}湛え、国内外で高い評価を得ました。

1977年からはイタリアのヴェネチアでも作品制作を開始します。「ヴェニス」シリーズは、藤田が「カンナ」と呼ばれるガラス棒を用いたヴェネチアの伝統技法を習得することにより制作されました。藤田は自身の色彩感覚によって自由にカンナを組み合わせ、現地の職人達と共にヴェネチアでのみ制作し得る数多くの作品を生み出しました。

同じくヴェネチアにおいて、大型のオブジェの制作にも取り組みました。溶けたガラスの動きに柔軟に寄り添いながら制作されるオブジェの中でも、《^{しつ}實》（1994年）は柔らかなガラスの動きと、金を用いた表現が見事に結びついた作品となっています。また、《實》や《Apple》（2000年）といった、果実をモチーフとした作品群は、手吹きガラスの制作行為と植物が実を結ぶプロセスを重ね合わせているかのようでもあり、作家独自のユーモアのある視点が投影されています。

富山市ガラス美術館の所蔵する藤田喬平作品の多くは、作家本人をはじめとする数多くの方々からのご寄贈により収集されました。今回は、寄贈作品の中から「飾 筥」シリーズ、「ヴェニス」シリーズ、そして大型のオブジェを含む17点を展示します。ガラスによる表現の新たな可能性に挑戦し続けた藤田喬平の作品世界をお楽しみ下さい。

関連プログラム

学芸員によるギャラリートーク

日時 3月5日（日）、4月2日（日）、5月4日（木・祝）、6月4日（日）

各回午後2時～

会場 富山市ガラス美術館 展示室4（4階）

※関連プログラムは事前申込み不要です。

※参加は無料ですが、本展の観覧券または企画展観覧券の半券が必要となります。

※関連プログラムの開催日時は都合により変更となる場合があります。詳細はHPをご覧ください。

HP : <http://toyama-glass-art-museum.jp/>

出版刊行物

展覧会カタログ

『富山市ガラス美術館コレクション展 特集展示：藤田喬平』

2017年1月20日刊行

価 格：300円（税込）

言 語：日英併記

デザイン：彼谷雅光（ナチュラル・デザインスタジオ）

発 行：富山市ガラス美術館

広報用画像

画像 1～6 を広報用に貸し出しいたします。

ご希望の方は下記の使用条件をご承諾の上、別紙の画像申請書にて
富山市ガラス美術館広報担当へお申し込みください。



1.

藤田喬平

《實》1994年

富山市ガラス美術館所蔵

撮影：斎城卓



2.

ハワード・ベン・トレ

《大水盤》1999年

富山市ガラス美術館所蔵

撮影：斎城卓



3.
藤田喬平
《飾篋「竹取物語」》2000年
富山市ガラス美術館所蔵
撮影：齋城卓



4.
ハーヴェイ・K・リトルトン
《黄色の冠Ⅱ》1984年
富山市ガラス美術館所蔵
撮影：齋城卓



5.
レネー・ロウピチェク
《スワロフスキーⅡ》2000年
富山市ガラス美術館所蔵
撮影：齋城卓



6.
エルヴィン・アイシュ
《そして私の仮面は落ちた（頭像「ピカソ」シリーズより）》
1997年 富山市ガラス美術館所蔵
撮影：末正真礼生

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： _____

Tel： _____ Fax： _____

E-mail： _____

住所： _____

団体名： _____

富山市ガラス美術館 画像貸し出し申請書

次のとおり、掲載用素材として画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： _____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください） _____

4. 掲載（放映）日時： _____

5. ご希望の画像番号： _____

○作品に文字やほかのイメージを重ねることはできません。また、縦横比の変更やトリミング、キャプション等の文字が写真にかぶらないようご配慮をお願いします。

○作品掲出には指定するキャプションを必ず入れてください。

○作品写真の2次使用はご遠慮ください。

○商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。

○校正ゲラの段階で情報の確認をさせていただきます。

○記事が掲載された場合はDVD、掲載紙、誌を一部ご寄贈いただきますようお願いします。

申請書送付先：富山市ガラス美術館広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax：076-461-3100